

# くまもと 就農支援だより

Vol.7  
2023/3

NPO法人 熊本県就農支援機関協議会

## はじめに

NPO法人熊本県就農支援機関協議会 理事長 木之内 均

令和4年度も、新型コロナウイルス感染拡大で活動自粛が続き、一堂に会しての議論、意見交換が出来ない状況でした。当協議会活動も影響を受けながらも、認定研修機関担当者会議や2回の受入農家研修、新規就農スタートアップ支援力強化事業、気づき研修の取材などを実施して参りました。



新規就農者の育成は、日本農業の将来を左右する緊喫の重要課題であることは、地方自治体、農業団体ともに共通なことと思われまます。その解決や対策に、諸制度の活用も視野に入れ有効に活用し、地域での就農定着に結び付けることが一層大切と考えます。その為にも、熊本県が認定した研修機関の活動充実・強化が重要です。

新規就農者は周りに知人も少なく、心細く感じている方もいます。信頼できる指導者や地域のサポート体制が整い、伴走型で共に育つということが重要と認識しています。

この認定研修機関がその役割と機能を果たせるように、熊本県をはじめ農業団体、日本政策金融公庫、農林中央金庫などの関係機関と一層連携を深め、受入農家や研修機関指導者等の皆さんが、新規就農者の現状に寄り添い、それぞれの立場でのご指導・ご支援を進められますよう、諸事業を実施して参りたいと思います。今後とも当協議会活動への御理解とご協力を宜しくお願い致します。

## 理事会・総会を书面決議で実施

令和4年度初の理事会は、5月28日付けで书面決議を実施しました。

新型コロナウイルスの感染事例が熊本県でも確認され、その拡大が懸念されることを踏まえ多人数での会議による3密を回避し、理事会と共に総会も书面決議で実施しました。

役員改選では、理事は3人が再任、1人の退任、1人の新任となりました。監事は1人が再任、1人が退任、1人が新任となった。退任の役員は、所属する団体での改正や人事異動によるものでした。



## 令和4年度 認定研修機関担当者研修会の開催

8月4日(木)午前10時～正午まで、熊本県立農業大学校研修交流館2階研修室で出席者35名(会員24名、関係機関等11名)が集まり、今年度の活動に係る計画の推進や課題等について研修会を行いました。

熊本県からは農地・担い手支援課の中島課長、横手主幹らのご出席され、ご挨拶を賜り、本県における体制・事業概要の説明を頂きました。研修会では、理事長・木之内の講演と、「知って助かる就農研修受入れガイドブック」、「適切なマッチングのすすめ方」の解説や、(株)日本政策金融公庫、くまもと農業経営継承支援センターからの情報提供がありました。参加者一同、アンケートには、「他地域の活動事例の話などの話し合いが出来たらもっといい研修が出来た」、「今後の活動に参考となった」等の意見があった。



熊本県農地担い手・支援課 中島課長



研修風景

## 令和4年度 第1回 受入農家研修会を開催

8月4日(木)午後1時00分～午後4時30分まで、熊本県立農業大学校研修交流館2階研修室で行いました。参加者59名(受入農家35人、関係者24人)、新型コロナウイルス感染拡大防止のために、会場利用時の感染対策チェックリストを遵守し、検温、消毒、ソーシャルディスタンス、マスク着用、換気等に留意して開催しました。

まず、熊本県農地・担い手支援課の中島課長からご挨拶を賜り、横手主幹から「新規就農者育成の体制と流れ」について説明があり、続いて当協議会の理事長・木之内均が「指導機関の心構えと新規参入者の指導」の課題について基調講演を行いました。



熊本県農地担い手・支援課 横手主幹



佐藤氏・金子氏の事例発表



(公財)熊本県農業公社 水上課長



(一社)熊本県農業会議 金田経営専門監

その後、「研修生に寄り添って育てるためには」をテーマに、南阿蘇村農業研修生受入協議会の受入農家(アスパラガス栽培農家)の佐藤春生氏と、天草市担い手育成支援協議会アドバイザーの金子彰泰氏から事例報告がありました。

また、(株)日本政策金融公庫熊本支店農林水産事業融資第一課の黒木課長から新規就農者アンケート調査結果の報告、(公財)熊本県農業公社業務第一課の水上課長から農業公社が新規就農者用に確保する農地について、(一社)熊本県農業会議の金田経営専門監から、「くまもと農業経営継承支援センター」の事業や支援活動の説明がありました。

研修後のアンケート結果では、新型コロナウイルス感染拡大期であったため、「お互いの意見交換が出来なかったのが残念であった」という声も多かった。



(株)日本政策金融公庫 黒木課長  
事務局長・吉村の解説



研修風景

## 新規就農者育成支援ガイドブック「さあ!農業をはじめよう!!」農地取得編を編集

今年度の事業の一つとして、新規就農者の大きな悩み、課題である農地取得についてのガイドブックを作成することとなり、4月12日にワーキンググループを設置し、編集に取りかかりました。

原則として毎週1回の作成検討会を実施しました。編集をするにあたり、元・(公財)熊本県農業公社の高木辰三氏を加え、専門的な課題の整理をお願いしました。



編集会議

### 【ガイドブックの内容】

タイトル … 農地取得は至難の業

第1章 … 農地取得のための第一歩

第2章 … 農地の選択

第3章 … 農地取得Q&A

補 足 … 規模拡大へ

参考資料 … 知っておきたい農地用語・機関



## 令和4年度 くまもと農業の継承支援事業「新規就農スタートアップ支援力強化事業」

令和4年度も新規就農支援スタートアップ支援力強化事業の事業実施主体となり、JAの新規就農者を対象に実施しました。

貸出ハウス整備支援の事業として、中古ハウスの継承が基本となっております。昨年度までと同様、当協議会の副長・平岡が、マッチング事務から申請事務、現場確認等、様々な業務に取り組みました。令和4年度はJA阿蘇2件、JA鹿本1件でした。

当NPO協議会が事業実施主体となって実施した令和元年度からの累計は、今年度までで15件となりました。



### あなたの農業への適性を探る

## 「農業人材適正・資質向上(PLI)研修」と「農業気象」研修の講師として活動

JA中央会が主催する新規就農支援セミナー(会場:JA教育センター)の内の3回、9月13日(火)、11月7日(月)、12月6日(火)に、講師として理事長・木之内、事務局長・吉村、副長・平岡が指導に当たりました。3回で研修生延べ約100名参加のもと開催されました。



## 令和4年度 第2回 受入農家研修会の開催

12月8日(木)午後1時00分～午後4時30分まで熊本県立農業大学校研修交流館2階研修室で行いました。参加者23名(受入農家13人、関係者10人)、新型コロナウイルス感染拡大防止のために、会議室利用時の感染対策チェックリストを遵守し、検温、消毒、ソーシャルディスタンス、マスク着用、換気等を徹底し、休憩を取りながら開催しました。

まず、熊本県農地・担い手支援課の渡辺審議員からご挨拶を賜り、横手主幹から「新規就農者育成の体制と流れ」について説明、続いて当協議会の理事長・木之内均が「指導機関の心構えと新規参入者の指導」の課題について、基調講演を行いました。

その後、「研修生に寄り添って育てるためには」をテーマに、山都地域担い手育成総合支援協議会の受入農家・鳥越靖基氏と、天草市担い手育成支援協議会アドバイザー・金子彰泰氏から事例報告がありました。

また、(株)日本政策金融公庫熊本支店農林水産事業融資第一課の黒木課長から、新規就農者アンケート調査結果の報告、(一社)熊本県農業会議の金田経営専門監から、くまもと農業経営継承支援センター事業の重要性や、経営計画継承シート作成事例の紹介がありました。

アンケートでは、「指導者の心構えが出来た」、「受入農家と研修生のトラブル事例も聞きたかった」等がありました。



令和4年度

## 気づき研修・取材を実施

昨年度に続き、「気づき研修」での集合視察研修は取りやめ、代わりに認定研修機関の皆さんへ効果的な研修実施の一助となる情報提供を目的に、県外の事例を映像化して配布する事とし、令和5年2月2日～3日(一泊二日)、和歌山県と兵庫県の現地視察・取材を実施しました。

○和歌山県紀の川市新規就農者受入協議会「ふたば塾」及び「紀の川アグリカレッジ」では紀ノ川農業協同組合長や受入農家(JA理事)からの説明を受け、研修生の生の声も聴くことが出来ました。「紀の川アグリカレッジ」は市役所の担当係長から説明を受けました。市、県振興局、JA、受入農家等と協議会を設置して、イチゴ後継者に特化して一年コースと二年コースを運営していました。

○丹波市「農(みのり)の学校」は丹波市立と言うことであり、市の所有する農地、施設、機械等で、運営の指定管理者として(株)マイファームが指定され5年目になっていました。その運営事務局担当者から研修生募集、実際の指導面、圃場の実際を学ぶことが出来ました。全日制で年研修費67万円、20名定員で取材当時は15人が在籍していました。卒業生の中で51%が独立、雇用就農28%、半農半X14%、内、丹波市在住は58%となっていました。

○丹波篠山農学校は、丹波篠山市が主宰している農業講座でした。13講座があり、内、1講座は林業、3講座は獣害対策でした。丹波黒大豆の日本農業遺産認定による経済効果は大であったとのことでした。兵庫県新規就農支援センターが実施する研修会への参加サポートも行っていました。



紀ノ川農業協同組合長を含め研修



受入農家・佐田理事(右から2人目)



農の学校説明風景



研修圃場見学



丹波篠山農学校説明

### お知らせ

### 今後の協議会活動について

歴史上、稀な新型コロナウイルス感染拡大は、日常生活に大きな影響を及ぼしています。緊急事態宣言の解除後も新たな感染の拡大が続き、社会不安となっています。当協議会も、活動・行動に注意し事業活動を継続します。

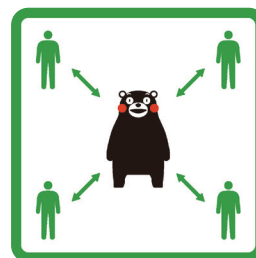
くまモンと一緒に新しい生活スタイルを!!



©2010 熊本県 くまモン



手を洗うモン  
#WashHands



くつつかないモン  
#KeepDistance



換気をするモン  
#OpenWindow

■お問い合わせ先……………



NPO法人 熊本県就農支援機関協議会 (担当)吉村 孫徳、平岡 浩晃

〒861-1113 熊本県合志市栄3802-4(農業公園内) TEL:096-273-6015 FAX:096-273-6016

E-mail:k-shunoushien-k@ninus.ocn.ne.jp